



□ 13  
3062  
1

太 上 感 應 篇









門 18  
3062  
1

口 13  
3062  
1-2

島田  
藏書

新編  
島田  
藏書  
三月

太上感應篇俗解

此書道家老子ノ説ケル處者也。

儒家ニハ道德經ト等ク異端ノ書トシテ

周文ナシ。余ハ綱ニ是ヲ思フニ。大概儒ヲ

學者。口ニ孔子孟ノ書ヲ説ク。心ニ得。身ニ

行。事ハ末ダシ。其勝劣。是非ノ極ニ至テハ

愚目及ハサル處也。只今日童蒙。幼稚ノ

者。卓ク其行ヲ直フニ。其心ヲ信ニスルハ。必

斯書ノ要ナラシカ。爰ヲ以テ。勸善ノ徳有

コトハ。儒ノ大綱ニモカナリ。余幼ヨリ儒ノ側ニ

太上感應篇上

150 154



遊テ。道德仁義ノ片端ヲ聞。其後折ニ講  
説スレ。能其道ニ方ナルハ希也。一日世書ヲ  
採テ相談スルニ。人多頭ヲ頌テ。百ニ一人ニ人  
ハ。實ニ志ヲ專セル有サレハ。勸善ノ德  
無ニモ非ス。而モ其卷々簡策ニシテ  
讀ニ倦テ難シ。此故ニ俗語ヲ以テ。粗本經  
ヲ解シテ。座右兩三ノ幼兒ニ與フ。是  
只其行ヲ直フシ。其心ヲ信ニスル疾ナル  
一ハ疾カナリ。サレハ大道聖教ノ一助ト成シ。キニ  
モ非レ。必後世ノ學者漫リニ過ルナカレ

一 感應ト者。感動也。應ハ諾也。此心彼心ヨリ  
相通ルヲ云  
一切ノ品物。天ヨリ出ル物ナレハ。品物ト  
天ト本是一体也。人猶品物ノ長也。此故ニ  
心天心ヨク相通ユト。殷武ノ夢シテ傳説傳  
ガ如シ。是ニ依テ人心信ヲ以テスレハ。水晶石  
ヲ以テ。日月ニ對スルニ。天上ノ水火。自降り  
得ガ如シ。一心懇精ナル時ハ。物各其應アラ  
ズト云フナシ  
今此天ト云ハ。目前形体ノ天ニアラス。幽冥

感應ノ上

二



不側靈神アル處地一切品物皆曾祖也。又地ニ  
 蟄フユウ。龜キ。鶴カヅ。且長毛モウシウ。獸シウ。螺ラク。虫トウ等ノアル如ク。天ニ  
 毛壽齡長短禍福貴賤等ノ星辰其外種  
 多クノ靈神等有テ。各其德ヲ備ヘリ。若人  
 身ヲハテタトハ一身中一切間事ヲ耳ノ司ツカサトリ  
 見事ヲ目ノ司サトルカ如ク。天ニモ亦其神アリテ。  
 各其德ヲ備ヘ。其事ヲ司トラシムル者也。或曰  
 其神ト云フ詎シカラズヤ。答曰。今日人トシテ  
 其心アルガ如ク。草木ノ成長スルカ如シ。人トシテ其  
 心ナケレバ動カズ。草木モ花咲實ノラス。且天下

切ノ動物ニ於ル皆悉其神アリテヨリ。其形ア  
 ラル者也。此ニ依テ。天下一切形アル者ニ於ル  
 其神アラスト云フナシ。故ニ心真ニコトヲ慮テ。其  
 幽ユウヲ仰ク時ハ本モト是一体ナル故。其應オウアルニ  
 ト云フナシ。是等ハ聖道ノ綱要ニアラスト云  
 凡其神ヲ祭ル事ハ。聖賢比自祭レリ。サレト水  
 ニ車ヲ浮メ。陸ニ舟ヲ遣リ。角ヲ絞ルガ如キハ  
 念ノ發ル處非礼ナシバ。其應アルナシ。或ハ  
 宰長忠ニヤクヲシバ。上君ニヤク爵祿ヲ以テシ。其子孝  
 ヲハテスレバ。親オヤイヨク慈愛ヲ増ハ。是皆目



前ノ感ニシテ凡愚モ知處也。其幽冥ノ感ニ於  
ル其秋体ナリ。眼自ニ遠キヲサレハ日久爰ニ  
心アルニ氷ハ知事難シ。晨民心ヲ復寄リメ  
ニ見時ハ其幽顯シズト云一ナシ。人各彝倫常  
行ノ外サノニ太過不及ハ有同敷一ナルヲ浮  
沉懸隔ニシテ災殃度至若ハ九族漸滅スル  
カ如キハ皆是之眾ヲ天ニ得ル者也。此處ハ自心  
ノ至思惟亦サレハ辨カタシ。爰ヲ以テ思フニ天下  
崇尊ノ精キハ除災長壽ノ媒。民ノ居ヲ安シ法  
度ノ正キ長世久治瑞也。其本乱ヲ柔脩者アリ

○りろろろには此書とそふん  
毎朝ね返讀誦して。奉命下永久  
にして。まほくは天福とゆふふ  
こと。代替代の注し述り。海と  
士農工商共々。毎日け書と讀んで  
念とやめ。若しころけよめも  
天乃恵とゆふさ。眼前の理あり  
見系人浅きして。律若せむさ  
教して福せんことを。錢録し。是俗  
解はくふ志なり。



太上感應篇俗解上



善惡昭報章第一

此れ善とてたゞ九章小別あり。以て一章の善悪もいづれに報ある事と述ぶるなり。

太上曰 太上之於下也如天之於地也

禍福無門惟人自召

禍福無門惟人自召。天の力は陰陽を給ふ事あり。天の善いふは災の禍と降し。れ亦いふは福と

感應篇上



あつて海をく。是ついでに門のあつたやうに  
此方より東のひびに随く天より降りてきて  
まゝ事あり。まゝの事本と極つて。情と  
わづらひと極つて極つて極つて極つて極つて  
又廉界の情入まされし。事本  
或はわづらひ極つて極つて極つて極つて極つて  
天にあらし。極つて極つて極つて極つて極つて  
あつた事也。人れ天命とくもく盛つて天衆と  
極く刑戮とく極つて極つて極つて極つて極つて

故小只人自名といふふなり。

善惡之報如影隨形

此のいふ善は善惡はほどいふ又天より禍福  
と降し。まゝ事いふ。まゝの形わづらひ  
此を同し。此の善惡は親切なり。  
必と心とそくされた善く。則禍福なり。  
何やと心小惡と極つて極つて極つて極つて極つて  
禍福なり。極つて極つて極つて極つて極つて  
まゝ事いふ。まゝの形わづらひ  
い章とくいふ一書れ所あつたなり。まゝ



口と奥よりさうさうとさひ心と達するなり。又  
かへりて是をさしとす。

○天神司過章第二

天神とるむ天道あり。天の神明ふ思後れ  
徳ありまの天神たること。司過とる人れと  
こあやかりしと監察治るるかあり。

是以天地有司過之神。依人而犯輕重  
以大奪人業。

是の以るとの上とすもくさへあつるなり。右にさへ  
如の天より人の悪と察し人かさるる天神

かましましり依て人れたて悪といふ衆の  
大小に随く根幹生じわつて天よりあつる  
人れ壽命とすり也。奪治りり業とるあ  
命の事たり。人世百日月らと一業にり存る  
業減則負純多逢憂患

悪と約する人。右よりさへあつる天地神明より  
あつるに人れくむもの事業減り  
成るも業も貧賤にどがりく方よりあつる  
とと統りる事なは命なりと或は致歎  
あひ。或の罪業ふり也



人皆惡之刑禍隨之

右れ惡人といふ人ぞほごれ人におあはせとて  
こころぬかり振本むふれ人にお天候とそ  
かくそより老たもまばかり悪人れ後仁とん  
向く事やいさやんるやいたわはまてまへと  
けと嬌ふたなり。然もハそのおらりの武にこれ  
刑得りあひ或ハ大なる禍にまかりく身  
裁上門書もいしてまごめぬくれ罪  
以る是則天理の常行く今人々人の心に  
歴然として毎くも能扱わらる也。

吉慶避之凶星災之筭盡則死

凶の悪人ハ元一門れを事悦れりハ吉避てあはせ初て  
天れ悪星流れ災とて人小降とてかりの家  
り右祥と司星と悪災と司星とと立  
て善人ハ吉星福と示し悪人ハ又悪  
星災とたてとてとてハつと。然もハ善惡ハ皆い  
方しりまへハつとてよりあなれもどや天人合と  
ぬく人れらるが天れ御神人あつたなり。相  
人れ壽命とびも悪と行ふ大少く隨く  
夫より奪あつたまてまはれもりに終り















と云ふやうな事も人々胸中れ一合えたりと  
と知つてぞまゝにぞく来にぞの如く悪  
よあはくとも。何はぞ人とも欺偽善人  
れありよ心だん口も。律いも。衆にお  
しく天にも悪のゆゑなり。おろく響き出  
より尚すもやうなり。下慈く。

○避過延生章第三

凡人有過大則奪紀。小則奪筭。其過大  
小有數百事。欲求長生者先須避之。

と云ふ人れむとわすれ小も過大かまは  
しり一紀十二とれ壽命と奪。小は筭一  
筭六十日。命と奪。法いそ終り死亡小  
ふり。されば一日の内より人れ行ふ業十  
のさかんや。まゝとく一の中におろく  
故くも過大小教有りといふも。然るも壽  
命長生と求むく。幸と福と若く先ん  
一此感應篇より述ぶるも。命の教とあり  
て。つのも悪事と行ふるも。都て人  
間のしりなき事。皆おろく。免れ事















あつと切と累との方なり。慈心と慈愛  
慈悲と慈とむふと慈と慈と  
愛し、いづくじとつたると。たつとつと  
生る物と類とつたり。生と教とく家身  
衆とつとつ悦とつたり。大なる愛人なり。系  
小のゆあり。仁とつとつ義とつとつとつ  
て今日れとつとつと教とつとつとつとつ  
時ハ人として教と事あせと況や畜生に  
於や何ぞ一切の教とつとつとつとつとつ  
そとつとつと本とつとつとつとつとつとつ

也。教とつとつに教とつとつに理あり。ゆが小物と教と  
中とつとつ。仁愛なり。人ハ必天心とつとつ  
そとつとつ。孟子にも。君子ハ遠危耐  
也。あつとつと教とつとつとつとつとつとつ  
しつとつとつとつとつとつとつとつ

忠孝友悌正己化人

忠とつとつと主君とつとつとつとつとつとつ  
諫とつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
人ハ大身小身とつとつとつとつとつとつとつ  
至君に賣後とつとつとつとつとつとつとつ







世つゝくもるべし。棟と下れ人々若者一羽を  
 もくおきし。うら雨と知れ。まふいも海に  
 幼稚の赤。父母の愛なく。何ぞして人  
 間ありありまや。せんたかたさ。間ハ辨くを  
 ち海ふつと。さそそ。ま漸く。あつた  
 ろるまは。わらふと。入向と。子乃事と。わと  
 まふと。がた。わらと。おれ。わら。さ。ま。と。縁  
 かい。ふ。し。さ。さ。と。歎。と。痛。と。く。ま。老。乃。牙  
 に。む。事。と。志。と。ま。み。れ。成。人。と。信。ひ。小  
 才。に。父。母。乃。財。宝。知。れ。に。あ。ま。く。ハ。信。ま。ま。く

子に議わら。あつた。か。ま。れ。む。人。れ。子。乃。老。一  
 つ。び。い。恩。と。報。せ。ん。と。ま。ま。と。廣。大。な。ま。み。れ  
 天。乃。り。と。ま。ま。と。父。母。乃。恩。な。ま。ま。と。報。せ。り  
 と。ま。ま。と。あ。ま。と。ま。ま。と。父。母。乃。對。し。孝  
 れ。ん。と。ま。ま。と。あ。ま。と。ま。ま。と。恩。は。と。ま。ま。と。あ。ま。と  
 親。と。ま。ま。と。父。母。乃。恩。と。ま。ま。と。報。せ。り  
 と。ま。ま。と。ま。ま。と。人。に。く。内。心。の。善。生。ま。ま。と  
 ろ。ろ。ろ。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と  
 ち。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と  
 目。乃。と。ま。ま。と。恩。と。ま。ま。と。人。並。乃。ま。ま。と。ま。ま。と











矜恤寡敬老懷幼

遊人と愛し老くじ中にも父母なり孤く更  
小別る寡婦といはれりまじり老かまは  
弟一に老小哀憐とせしむる惠とくは母  
老人とば致ひまじり初めり老とばなり  
かつもく不佞と加りたり凡一個一羣と  
か主人とらる人とも國群り徳氏とみよ  
く慈愛とほごあり氏乃創製り及ん  
子やういと常る公とほくする中いかに  
れ老いざりもを頼じこころなく血氣も

水盛かしくる老なるを惠とせしす  
かりとく又天下れ達もくまじり  
者ハ位あり人とせり人と老人とを  
もくまじり人と朝壽り由界り物とま  
礼とく向くは是れ非道なりやい理  
とせり

昆蟲草木猶不可傷

凡にの道とせり人ハを愛するが中一ハ  
まじりりと推くハ禽獸もく愛とせり尚  
昆蟲とく都くまじりらるる虫の類まで











飛とをのれあしと事といふには。是を天理よといふく  
 うとならばに世間の人れととり々々小人の  
 うとと評判し嘲と却と却と我れ辨明するからふ  
 族がほし。謹む先と忘ぶ。○次にいふにはお  
 智と藝と術と。りらめにいふ人小知もまを  
 術あらうの事ならしし。術といふ高人の高貴を  
 也といふ見もくたしくも黒しり後群  
 一といふいからうの事なり。自分からうの智  
 藝能れうこうあらうの事は此人の  
 術の術にくまいられるにあらうといふ人

一といふ事あり。人を知るからしますの事なり。こ  
 一といふ謙退の事なり。あらうといふ人の心を  
 一といふ見もくたしくも黒しり後群  
 一といふいからうの事なり。自分からうの智  
 一といふ藝能れうこうあらうの事は此人の  
 一といふ術の術にくまいられるにあらうといふ人

過や思ふ揚が善を推多取少

一といふ見もくたしくも黒しり後群  
 一といふいからうの事なり。自分からうの智  
 一といふ藝能れうこうあらうの事は此人の  
 一といふ術の術にくまいられるにあらうといふ人







ひ身と破滅とる例夫一人の事とるごとく他人の  
ことと顧く。自己のいふ事と見とせよ。

施恩不求報與人不追悔

施恩とい他人の爲る。施恩の情と入力と  
く向の一人の恩とかんせとる事なり。是  
事なまふ父母ふるる孝も共に此中に  
免つてん恩父一人他人の事とれ事  
力と入る。他人向の道とて我々の  
不職分なり。是の恩と向の事と  
も報礼たるとも。少くも事とる事とる

かゝる事。も一求るにむあむ。免る忠孝ハ  
兼又る事向道なり。我がれ爲に。  
他人の物とす。地とす。是にあらむ。是  
免れ利と求る。是の免とせむ。是  
免小勤く。海却られ。報礼と求る  
に依く。我本にあらむ。是の免と  
考見ゆ。○決る人ふ物とゆ。あを  
も。是に吝惜れ念と起。後悔とる事か  
る。都道と知人。免るる理と知  
て。あむ。是の免と。是の免と。あ



事ふべし義ふあはば命と掛くも  
かも悔事なる也小人愚人はいの理と  
どしてさる免る血氣にまらむと  
と物と交ゆにいと血氣まじむ  
悔と事多し

所謂善人皆敬之天道佑之福祿隨之  
安邪遠之神靈衛之所作必成神仙可冀  
此章のうらめしき人立らむとされ  
人かん問はもの人は善人と教ふるひん  
となしと天道ふと又此善人とす

あふふりてさゆぐら福祿まのりた  
我がうらめしき人満る禍自然と此  
人より遠ざかり天神い人と加護あつて  
我が守り候らまて皆成就せむとす  
ゆかた。是よりわしてはの神復不田  
れ神仙れ境博くもむりやとことなり  
○とて邪ハ正しと勝とす此方れ氣  
正しと時ハ自然もゆぐら邪氣ハ遠  
もろかり。まゝと眼くまゝと妖怪乃類  
是皆邪氣乃なるとことなり。い方り



よき海なるがわまは同氣相りく  
家に猶よきくゆかりのそまはれり  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪

○求仙立善章第五

此章より八仙術と求めんと思つて必しも

前より教道とより立行みるあり

夫欲求天仙者當立一千二百善  
地仙者當立三百善

此章上にいふ所は練仙可冀と云ふと受  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪  
くまは向う邪氣自然と遠らりと妖怪







一、解のつごころなり。○動さ。かゝるそ平生に  
に此義ありまるとして眼より此義れ又ん  
耳より此義の音と支類と云。○約と。此  
君父に侍る朋友より更却日用の勅作不  
れ業は天理より宵と云たり。

○此二句何と指と事なり。一章のつごころは  
ハ、大綱と奉之具より下に之目と述り  
以悪為能。惡作殘害。

先惡人の跡なり。正に訛とこれ此義れす。  
宵天理約とあり却と云が知能の述り

きま故とありて教く身内。相堪殺れが  
つごころ生とそかふふとぬく  
祭心仁心とさく今殘害となすと云り。  
海害と二字とを指す物とそ。かひ  
危つるとさつり。第一人なり。さか。高生  
とこ先とさあり。孟子より不嗜殺之者  
く天下と一統とんと説又弁の宣王に  
一半れ死とつごころ。王道よりか  
つりた説より。此の意と残人のを惡  
れ魁なる事と云ふ。



陰賊良善暗侮君親

夫才に忠孝と行ふ良人善人の悪人の爲に  
ハ大いに忌むる心也。いんじんをばいひゆが  
ゆいよと本とわかれし。そのゆがと強あを  
あつとあつたら故に。其乃善人のあまの世  
し。かくく或の悪人と殺或の遠方（放川）  
敵討り此千とくふ賢人とくろ。其王の  
伍子胥と害す。りり。○次小己がねと  
かまふ。りり。利とゆぐ。ま。ひ。さ。ん。美  
とあまじ。父母とあつ。り。て。怒り。欲心

慢其先生叛其所事

先生を以て師と尊ぶる人。とま。り。怒。に。ま。り。曰。れ。師。も  
終身乃父なり。と。其。の。義。師。れ。と。つ。と。て  
を可。道。なり。右。れ。あ。つ。ら。れ。悪。人。の。師  
とも。あ。つ。く。後。あ。つ。る。是。事。く。ら。と。危。我  
指。あ。つ。と。ら。職。と。つ。く。或。い。も。役。而。法。と  
と。勅。或。の。戦。場。く。わ。く。武。勇。と。勇。を。報。つ。夕  
主。を。此。膝。本。く。結。く。と。用。と。違。し。都。て。か  
下。人。と。あ。つ。く。と。は。い。ひ。り。者。の。悪。人。つ。ま



ふ不<sup>と</sup>不<sup>と</sup>う<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>実<sup>じつ</sup>なり。我<sup>わが</sup>俊<sup>と</sup>と人<sup>ひと</sup>事<sup>こと</sup>く<sup>く</sup>多<sup>た</sup>けりて  
か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>事<sup>こと</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>じ<sup>じ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>也<sup>なり</sup>。を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>隠<sup>かく</sup>り<sup>り</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>  
せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>教<sup>しゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>也<sup>なり</sup>。

誑<sup>アキハキ</sup>諸<sup>シヨ</sup>無<sup>ム</sup>識<sup>シキ</sup>謗<sup>バウ</sup>諸<sup>シヨ</sup>同<sup>ドウ</sup>学<sup>ガク</sup>。

○世<sup>よ</sup>に<sup>に</sup>愚<sup>ぐ</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>人<sup>ひと</sup>愚<sup>ぐ</sup>痴<sup>ち</sup>文<sup>ぶん</sup>盲<sup>もう</sup>に<sup>に</sup>し<sup>し</sup>拘<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>を  
と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
を<sup>を</sup>憐<sup>れん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
ぬ<sup>ぬ</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>誑<sup>あき</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
ら<sup>ら</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>聖<sup>せい</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>賢<sup>けん</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>

虐<sup>キヨ</sup>誣<sup>ブ</sup>詐<sup>サ</sup>偽<sup>ギ</sup>

さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>。の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
の<sup>の</sup>誣<sup>しゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
債<sup>さい</sup>軍<sup>ぐん</sup>朋<sup>ぽう</sup>友<sup>ゆう</sup>れ<sup>れ</sup>事<sup>こと</sup>と<sup>と</sup>誣<sup>しゆ</sup>を<sup>を</sup>愚<sup>ぐ</sup>人<sup>にん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>  
なり<sup>なり</sup>事<sup>こと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>事<sup>こと</sup>も<sup>も</sup>



了。詐のりつらり事と云く當分れ  
和とゆふときふ。偽と云假物まもくとあまじ  
きと云く當分れすに合と云くさふかあり。是  
皆主悪乃人れぬじ事なりと。

攻訐宗親

宗親との親子兄弟と云く先都く一親と云  
者と云くしてさつり。一内親親の向或軍と  
祭一或喧嘩の論と云く又の上一詔あはる  
きと云く皆是攻訐と云くさなり。帝竟れ徳  
とほしつにも九族と云くさなり。先死

初と云くつらり。聖人れ世の親と云く者には  
くれい。ももつらり。刑ありと云くせし。今も與るは。

剛強不仁恨戾自用

九と云く人柔和の性と云く下と云くは。又と云  
つらゆつら。今も剛強と云く我身に。はと云  
き。今も氣と云く人。口は。よら。し。の。言。と云  
中。山。仁。心。と云く喪。と云く者。は。を。初。不。一。理。に。そ  
し。今。も。其。を。若。恨。戾。と云く人。と云くぬ。とい。ふ。あり。あ。る  
ひ。と云く。化。分。つ。ら。事。と云く。今。も。耳。に。聞。入。る。事。



























況や竟煉しむとよりさる人又邪偽乃  
人々知りしゆりてきつに側りゆれば悪れ極  
日くふくさるりて家危くん事必危乃しとる  
かすくさや

凌孤逼寡無法受賂以直為曲以曲為直

孤と寡とのこころを先ふまへてよく仁人賢を  
此中一に先ぐとあてしむそのふれ乃先なる  
ゆると却て孤と成てきまじりれじべさ事  
なましく人ささく志乃先く是とさい  
るに。寡婦とて却てく先むけりて是と

あつて先極又人の今よりさく下れ訥語と  
時いふし下り乃法度ありく大不輕重乃刑  
罪ゆると相もれ賂礼物とせくも法と捨て  
刑とせりてさ先と刑とせりてさ先とせり  
とてさ先人の分れ欲てしむさ事と判  
じする故り直なるりしと曲なるりしと科  
し曲なる事とて却て直なるりしとさ先と  
赦るも曲直ともばさ理ふまうり也て事と沙  
はさるり刑とさ先とさ上とさ罪なり先と人  
公服とさるり也先にも理り逢へる人



先と笑ひ。天をうり先とつゝもまゝに丸く

可戒いひなり。

入イニ輕カ為カ重コ見ミ殺ス加カ怒コ

輕カは刑ケ法ホのハらニ罪ツをレ罪メのハらニ  
入イせズとシ刑ケとシあハらハるハ却ハるハ重コ  
罪ツとシ嚴コにシ刑ケとシ約ヒ又ハ人ノれ科とシ  
一ニとシ教スるハ時ハにハ人ノ子ハ是トとシ無レ憐レ  
しトとシ政道がレ是トとシ是トとシ殺スとシ  
是トとシ殺スとシんクもガとシ怒コとシ加カてシ殺ス  
よクはレ仁心をレ一ニとシ怒コ人ノとシ一ニ

知チ過カ不ズ改メ知チ善ヲ不ズ為ス自レ罪ヲ引キ他ノ

過カとシ必ズとシ兼テとシさレとシまシとシくレ凡ク是レ  
の理にハらハるハとシ一ニとシ時ハ過カとシとシて  
是レゆリとシ改メとシ二ニとシ一ニとシはレ過カとシ不ズ  
ゆリとシ心ハ過カとシ知チりとしテ却ハるハ  
過カとシかラらハ改メとシ事ト知チとシ改メとシ決メ  
はレ極メとシとシ過カとシとシ過カとシとシ過カとシとシ  
凡ク聖人とシり下れ志とシつレ過カとシとシ事ト  
あレんヤ賢人とシ君子トとシ過カとシとシ知チりと  
とシり過とシとシとシてハ真實とシ過カとシ川ト

過カとシとシとシてハ真實とシ過カとシ川ト















なるに。次ハ一切のいひ言ふと。まじく。和ら  
す。せとく事と。行ひ。天理れ。公乃。道と。六  
捨く。不用。

竊ススミ人之能ノフヲヨホヒ敵人之善ノ

人の技藝わざと。家藝かぎ能よく。知しる人  
ほ。あり。人乃。善よあり。と。蔽おほり。く。して。悪あく  
を。引ひく。な。ま。事ことと。そ。へ。く。世間よ。と。ま。ま。さ。ら  
や。う。に。こ。も。少すくく。む。か。り。あ。ま。は。日ひ乃。光ひかり  
と。霧きり粉こなれ。あ。り。と。掩おほり。く。と。う。が。如ごとし。

羽子





Handwritten text in blue ink, arranged in vertical columns. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. A red square seal is stamped in the center of the page.

鳥田  
藏書



